

# 家庭の空気

本日は文化の日です。この祝日は、私たちが大切にしてきた生き方や考え方に目を向ける日でもあります。

文化と聞くと、芸術や伝統行事を思い浮かべがちですが、実はもつと身近なところにも存在しています。

それは、家庭の中で自然に受け継がれている振る舞いや言葉、ものの見方です。

例えば、朝の「おはよう」、外出先での礼儀、困っている人への気遣い。誰かに教科書で教えられたわけではなく、日々の暮らしの中で、親の姿を通して子どもが学んでいくものです。特別な決まりがなくても、家族の中で当たり前のように続けていることが、その家ならではの雰囲気をつくっています。

文化の日は、そんな家庭の積み重ねを振り返るよい機会です。続けてきた中には誇れるものもあれば、少し立ち止まって見直したいものもあるでしょう。どんな言葉をかけ、どんな態度で向き合うのか。その一つ一つが、これから家庭の空気をつくっていくきます。

## 今日の言霊

**家庭の文化は、日々の関わりから生まれます。**

子どもの心の在り方は、特別な指導だけで形づくられるものではありません。むしろ、日常の中で交わされる何気ない一言や、周囲の大人の振る舞いが、大きな影響を与えています。

幼い頃に繰り返し経験した関わりは、成長してから判断や行動の土台となります。相手を尊重する姿勢、思いやりをもって接する態度は、説明されるよりも、見て感じて身につくものです。



教育の現場でも同様に、私たち教職員がどのように子どもと向き合っているかが、静かに伝わっています。忙しい中での声のかけ方、失敗した場面での表情や対応、仲間と接する姿。そうした日常の積み重ねが、子どもたちの人との関係の結び方や、自分自身の価値の感じ方に影響を及ぼします。

意図せず示している態度こそが、最も強いメッセージになることもあります。だからこそ、日々の関わりを丁寧に重ねていくことが重要です。一つ一つは小さくても、その積み重ねが、子どもの心を支える確かな土台となっていくます。

**【今回の学び】⇒今日の自分の姿が、明日の空気を作っていく！**